

広島芸術学会活動報告

令和四（二〇二二）年七月一日～令和五（二〇二三）年六月三十日

▼令和四年八月二〇日

会報第一六五号を発行。

▼令和四年九月一日付で「藝術研究」（年報第三十五号）を発行した。

▼令和四年九月十一日

令和四年度総会・第三六回大会を開催した（ウェブ会議システム Zoom を用いたオンラインによる開催）。総会参加者数は二十三名、大会参加者数は四十八名。

令和四年度総会は、関村誠事務局長の開会のことば、青木孝夫会長の挨拶の後、大島徹也を議長に選出し議事を進めた。まず、第一号議案「令和三年度事業報告並びに決算について」について、資料にもとづき事業報告および決算報告が関村誠事務局長からなされ、続いて、船田奇岑監査および古谷可由監査による監査の報告が船田奇岑監査からなされ、審議の結果、承認された。次に、第二号議案「令和四年度事業計画並びに予算案について」について、資料にもとづき事業計画および予算案が関村誠事務局長から説明され、審議の結果、承認された。最後に、第三号議案「委員選挙および令和

四・五年度役員について」は、まず令和四年度はじめに実施された委員選挙の結果と会長・副会長の選任等について、関村前事務局長から報告がなされた。選挙により選出された委員十名は青木孝夫、伊藤由紀子、石松紀子、今井みはる、桑島秀樹、城市真理子、関村誠、多田羅多起子、馬場有里子、山下寿水（五十音順）の各氏で、これらの委員の互選により、青木孝夫氏が会長に、関村誠氏が副会長に就任した。その後、会長が指名し総会による承認を必要とする委員五名には、大島徹也、柿木伸之、重藤嘉代、末永航、隅川明宏（五十音順）の各氏が、委員会が選出し総会による承認を必要とする監査二名には谷藤史彦、船田奇岑（五十音順）の各氏が選ばれたことが報告され、審議の結果、承認された。また、会長が指名する幹事に片山俊宏、山本和毅（五十音順）各氏の二名、事務局長に馬場有里子、事務局長に石松紀子、関村誠、多田羅多起子の各氏が就任することが報告された。すべての議事審議が終了後、青木会長の挨拶があり、閉会した。

第三六回大会は、研究発表（二件）とシンポジウムを行った。研究発表は、①横道仁志（大阪大学）「楽園の花——フェデリコ・フェリーニ『道』における人間本性と罪の問題——」、②安井誠（宮崎産業経営大学）「レオポルド・ブルームのジェンダー・アイデ

ンテイテイとインセスト」。シンポジウムは、「広島まちなか探訪―野外彫刻、モノメントを中心に―」をテーマとし、パネリストは藤井匡（東京造形大学・教授）、土肥幸美（学芸員／ヒロシマ表象文化論）、小田原のどか（彫刻家・評論家・出版社代表）、黒田大スケ（アーティスト）、石谷治寛（広島市立大学・准教授）の五名、主旨説明／司会・進行は山下寿水（広島県立美術館）、山本和毅（一般財団法人下瀬美術館）。

▼令和四年十月十八日

会報第一六六号を発行。

▼令和四年十二月四日

会報第一六七号を発行。

▼令和四年十二月二十五日

第一三五回例会を開催した（ウェブ会議システムZoomを用いたオンラインと対面のハイフレックス開催。対面会場は広島市立大学講義棟四〇四教室）。研究発表は、①森下麻衣子（海の見える杜美術館 学芸員）「渡欧が栖鳳の画業にもたらしたもの―「棲鳳」時代の作品との比較から―」、②村上春海（久留米市役所 文化財保護課学芸員）「舟木家旧蔵本洛中洛外図における人物表現について―職人尽絵を手がかりとして―」。参加者数は二十名。

▼令和五年三月十五日

会報第一六八号を発行。

▼令和五年四月二日

第一三六回例会を開催した（対面とオンラインのハイフレックス開催。対面会場は広島大学（東広島キャンパス）総合科学部M棟第一会議室）。研究発表は、①片山俊宏（広島大学大学院人間社会科学研究所 研究員）「呼吸と引力の共奏―岡田式静坐法におけるフラクタル的構造理論なるものを通して―」、②福光由布（四天王寺大学、奈良女子大学ほか非常勤講師）「米芾の鑑賞と制作―「平淡」「天真」「自然」「俗」を例に」。参加者数は十七名。

▼令和五年五月二十一日

会報第一六九号を発行。

▼令和五年六月十日

第一三七回例会として、大規模改修工事を終えた広島市現代美術館のリニューアルオープン記念展「Before/After」を見学し、松岡剛学芸員からリニューアルポイントについての説明をうかがった。参加者数は十三名。

◆会員状況

令和五年六月三十日現在、法人会員二法人、個人会員百四十七名（一般会員百二十一名、学生会員二十六名）

※文中、敬称を略させていただきました。また、肩書きは当時のものです。

事務局